

[発行]

JBS日本福祉放送 (社会福祉法人 視覚障害者文化振興協会)
〒534-0026 大阪市都島区網島町4-12
TEL 06-4801-7400 FAX 06-4801-7401
URL <http://www.jbs.or.jp>
発行責任者 川越利信

東京五輪招致の実現に向けて(5) パラリンピックを日本で

視覚障害者マラソン ランナーと伴走者

一緒に、楽しく

「伴走をするようになってから、ひとりでは走れなくなりました。おもしろくない、ひとりでは」マラソン歴14年、伴走を始めから5年の内藤青児さんは、明るい笑顔でそう語る。

6月も最後の日曜日、朝9時過ぎ、伴走者や視覚障害者が、元気に挨拶を交わしながら集まり始めた。誰もが、見るからに楽しそう。伴走者にボランティア活動の意識は見られない。仲間との楽しい集いなのだ。



大阪にある長居公園の外周道路で強い日差しを浴びながら走る「わーわーず」の皆さん。

長居わーわーず
走るのが好きな人たちー見える人、見えない人、見えにくい

人たちが250人が登録している「わーわーず」。「視覚障害者マラソン練習会長居わーわーず」が正式な名称。初心者からパラリンピックで期待されている人まで、多彩な顔ぶれ。ロンドンパラリンピックの銀メダリスト和田伸也選手もそのひとり。



代表の林かよみさん。雪に縁がない大阪生まれだがスキーもやるスポーツ好き。

毎日曜日の午前9時過ぎから集まり、走り、おしゃべりをし、歌い、昼ごろ解散。第2、4日曜日は定例練習会。集まる人数も多い。

共感、共鳴

トライアスロン世界ランキング第1位(視覚障害全盲の部)の長井敬二さんは、5月に横浜で行われたトライアスロン大会で予想を覆して優勝した。8月にロンドンで開催される世界大会出場権を獲得したのだ。



息の合うポーズの長井さん(写真左)と田中さん。6月30日、長居公園で。

伴走歴3年の田中相司さんと長井さんは言いたい事を言いあえる仲。長井さんは金融機関に勤務、田中さんは経営者。二人とも忙しい筈だが、仕事の後や日曜日、ほぼ毎日走る。「練習が楽しい」と長井さん。

視覚障害ランナーと伴走者の関係について、2人は言う。共感、共鳴だ、と。息を合わせること、けがをしないし、加齢が増す。共鳴の根底では、してやっている、させてやっている、ではなく「対等の関係」が大事である、とも。

ところで、残念ながら、長井さんはロンドンへは行かない。国内大会で優勝した世界ランキング第1位の長井さんといえども、大会出場経費は自己負担なのだ。大学生のお子さんを持つ長井さんは、「私自信のこ」とより子供の将来を考えたいと淡々と語る。

ちょっとぜいたくなJBSの楽しみ方
音楽&JBSをUSENで!

USENは24時間のノンストップ放送で、500チャンネル勢揃い。
快適な音楽生活をお約束します♪

月額使用料 6,000円のところ→3,000円(税別)

お問い合わせ・お申込みはJBSまで。

電話 06-4801-7400 FAX 06-4801-7401 URL <http://www.jbs.or.jp>



第16685号 平成25年(2013年)6月12日(水曜日)

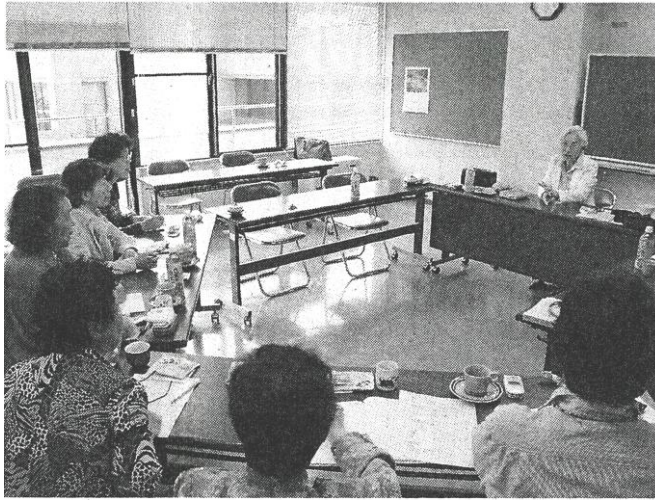
ボランティア活動の支援情報

被災地の音訳ボランティア

分かりやすい伝達を

音訳技術向上の講習会

大船渡で



社会福祉法人・視覚障害者文化振興協会(大阪府)などが主催する音訳技術講習会は9日、大船渡市盛町の

市総合福祉センターで開かれた。特別講師が、視覚障がい者が情報を分かりやすく聞くための音訳技術向上に

ついてアドバイスした。同法人は、障がいのある人や高齢者らの福祉と文化について考え、共生の文化社会の実現を目的に設立。全国の視覚障がい者に向けた専門放送「日本福祉放送(JBS)」をラジオ配信しているほか、録音図書製作・貸出し、相談事業などを展開している。東日本大震災後は、東北被災地への支援事業も実施。講習会は同



事業の一環で、公益財団法人・大阪コミュニケーション財団の助成を受けて企画した。

この日は地元の音訳ボランティアグループの「せきれい」と「オープンハート」のメンバー10人余りが参加。講師は音訳指導者の恵美三紀子さん(東京都)が務めた。

恵美さんは「相手に押しつけるような情報のは伝え方はダメ。目の不自由な方の立場を考え、分かりやすい発信の仕方を意識してほしい」などと呼びかけ。このほか、音声訳としての心構えなど基本的な事項について助言した。

参加者はメモを取りながら真剣な面持ちで傾聴。せきれいの事務局は「多くのことを教えていただき、大変勉強

強になった。今後も幅広い分野の新しいニーズを届きたい」と話していた。

同法人の金田直樹さんは「音声訳ボランティアグループに対する支援を通して、視覚障がい者の支援にもつながってほしい。グループ同士が連携を取っていきけるよう息の長い支援を行っていききたい」と力を込めた。

JR西日本あんしん社会財団助成事業
ボランティア活動支援
11回目の支援活動を7月2日、4日、大船渡で行いました。

宮古市田老の人びとは今、グリーンピア三陸みやこの敷地内の仮設住宅で生活している(写真左の上下)。

7月3日、新しい町づくりが始まり、山林を伐採するチェーンソーの音が響いていた(写真下)。唯一形だけをとどめたホテルの左後方の丘陵約20万坪が新しい住宅地となる予定。



講師の恵美先生と大船渡のボランティア・グループ「せきれい」、「オープンハート」の皆さん。7月3日、大船渡市総合福祉センターで。



音訳研修のご案内

7月24日(水)13時から16時45分まで。ドーンセンターで「読み方、図表の処理」をテーマに行います。講師は恵美三紀子先生。

編集室 大船渡にある東海新報社の記事を了解を得て転載させていただきました。

被災地は、復興景気に沸く業種もあるが、実態は復興とはほど遠い。ともかくも、田老の新たな住宅建設が始まった。(川)

企画・編集 川越利信/レイアウト・印刷 佐藤庸子